

学生の就職活動（面接力向上）支援事業

<p>① 経緯</p>	<p>平成 24 年 6 月に、大和田同窓会長（当時）に対して、大学より次のような理由により就職支援を依頼した。</p> <p>（依頼内容）</p> <p>リーマンショック後の景気の冷え込みにより、求人社数が減少しており、また、選考においては厳選主義が定着している。そのような事情もあり、本学の学生が企業を受験しても不採用となるケースが増加している。</p> <p>このため、本学学生について、鉄鋼会社にアンケートを実施したところ、① 基礎学力不足 ② コミュニケーション能力不足、という指摘があった。①については、習熟度別授業の展開や基礎教育センター開設等により対応しているが、②については、担任教員や学生・就職支援課が中心となり、模擬面接を行っているものの、マンパワーの制約もあり十分とは言えない状況である。</p> <p>については、白塔会(同窓会)のご協力を得て、模擬面接等の強化を図りたい。</p> <p>同年 7 月に大和田氏より、OB をご推薦いただき、次のお三方にご協力いただくことになった。</p> <p>1 期生 迫田 明紀 氏 4 期生 村田 耕作 氏 12 期生 山下 博 氏</p>
<p>② 活動</p>	<p>同年 10 月より、各氏の担当曜日を定めて、週に 1 日程度、模擬面接を担当していただくこととなった。</p> <p>現在（平成 27 年度）は、迫田氏のみであるが、継続している。</p> <p>開始当初は、2 年生を対象とした模擬面接を想定していたが、現在は、1 年生も含めて、就職意識の向上を図っている。</p>
<p>③ 成果</p>	<p>情熱をもって学生の就職支援にあたっていただき、この制度を活用した学生の就職内定獲得率は高くなっていると思われる。この場をお借りして、ご協力いただいた OB に感謝の意を表したい。</p>
<p>④ 今後の課題</p>	<p>すべての支援制度について言えることであるが、積極性の低い学生をいかに利用に繋げるかが課題である。この点については、学生・就職支援課が、各教員と連携を密にし、就職意識の低い学生の利用を促進しているが、さらに知恵を絞り対応策を講じる必要がある。</p>